

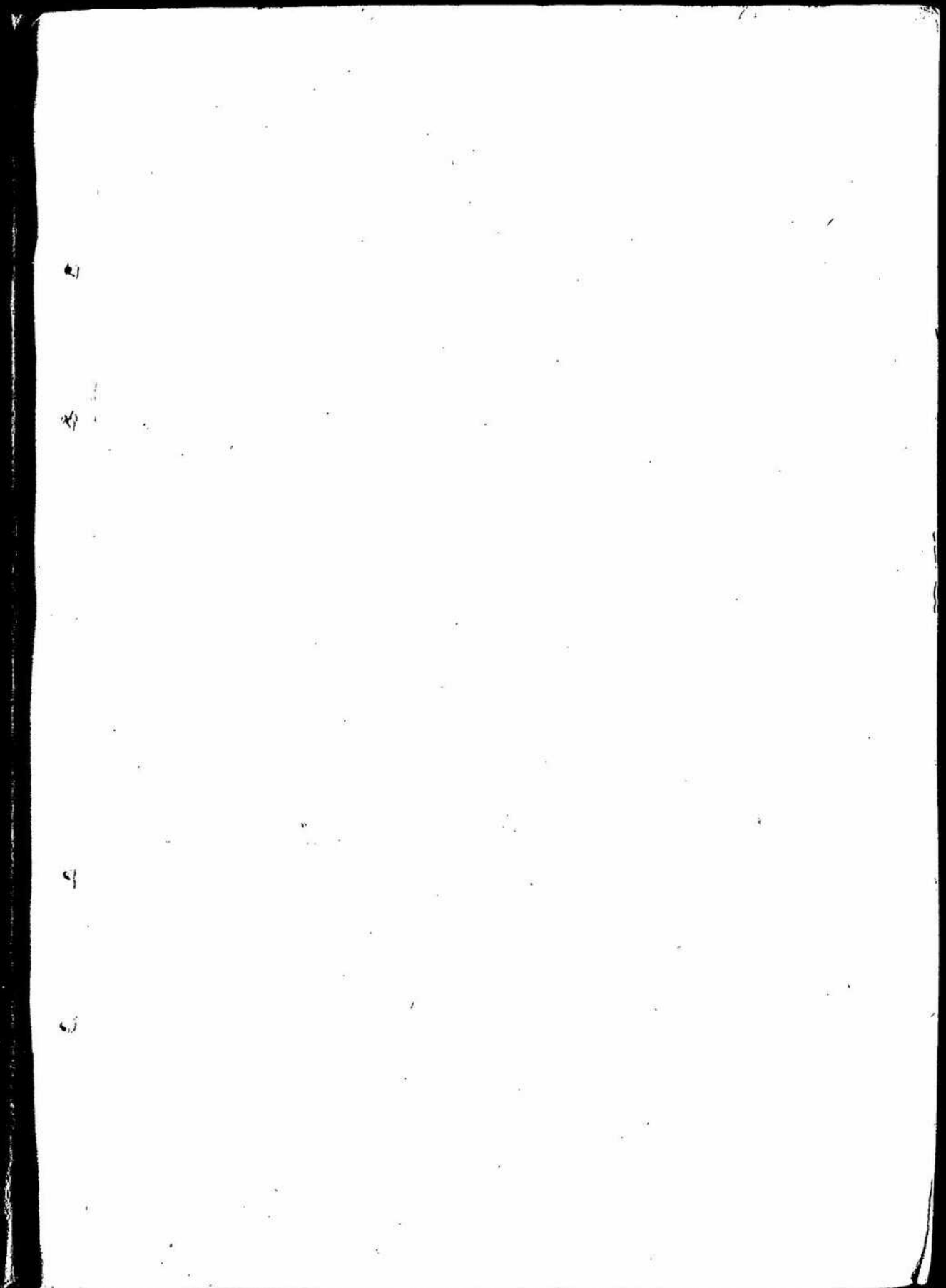
昭和十九年

内務省

公文雜纂

国立公文書館	
分類	① 内務省 ② 返 青
排架番号	3 A 15 29-2





00218E

381700

昭和九年

人事課

公報
雜纂

361227

No value
Home Ministry Meeting
Minutes of Conference
Mostly dealing with anti-air
precautions and evacuation
Civilian losses.

内務省

No value
15

国立公文書館	
分類	返 青
配架番号	3 A
	15
	29-2

裏面白紙

内務省

一 防空対策用資材配当ニ関スル軍需省防空總本部間ニ於ケル事務調整ニ関スル件

一 各種団体等ノ整理ニ関スル件

一 京城帝國大學教授祖川武夫中華民國政府、委囑ニ應シ旅費並給與ヲ受クル件

一 内務技手佐藤益男外一名大正九年勅令第百六十七號

(聘用セラレタル官吏又官吏待遇者ニ関スル件)才一條ニ依リ

華北政務委員會建設總署職員トシテ中華民國國民政府、聘用ニ應スルノ許可ヲ與ヘ並在職者ニ関スル規定適用ノ件

一 内務技手佐藤益男外一名華北政務委員會建設總

署職員トシテ中華民國國民政府ニ應聘中同國政府

ヨリ俸給及其他ノ給與ヲ受クルノ件

一 内務技師高田昭滿洲國政府、委囑ニ應シ且旅費ヲ受クルノ件

一 身許票整備ニ関スル件

一 決戦非常措置要綱ニ基ク工場防空強化対策實施要領ニ関スル件

一 各種會議等ニ関スル件

一 行政查察委員制度ノ運営ニ関スル件

一 離島ニ於ケル住民ノ引揚ニ伴、市町村行政ノ運営ニ関スル件

一 東京都小笠原支廳事務取扱所等設置ニ関スル件

一 中央官廳移轉計畫ニ関スル件

一八〇
一三二
二〇

三九
三四

四七

全

四七

四一三

五一〇

五七

七三

九四

九六

二八

381702

一 總動員警備要綱第三十六條ノ規定ニ依ル主要警備地ノ指定
ニ関スル件

供覽

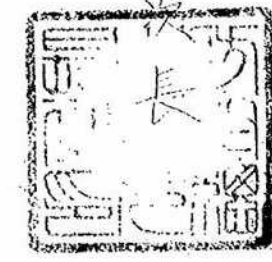
381703

防第三部

昭和十八年十二月二十四日

防空總本部 部長

總務課長 殿



防空對策用資材配當ニ関スル軍需省
防空總本部間ニ於ケル事務調整ニ関
スル件

曩ニ「現狀勢下ニ於ケル國勢運営要綱」閣
議決定ヲ見國內防衛態勢ノ徹底強化ヲ圖
ルノ目的ヲ以テ防空總本部創設セラレ防

内乙二

衛行政ノ強力ナル遂行ヲ期スルト共ニ防
空ニ関スル各廳事務ノ調整統一ノ實ヲ舉
グルコトニ相成候處右趣旨ニ即應シテ軍
需省及防空總本部間ニ於テ別紙覺書ノ通
決定致候條御了知相成度
追テ防空對策用資材ノ需要調書其ノ他
防空對策用資材ノ配當ニ関シ必要ナル
資料ニシテ爾今軍需省ニ提出スベキ書
類ハ當防空總本部ニ各一通宛御回付相
煩度尚昭和十九年度分ニシテ既ニ提出
済ムモノニ付テモ各寫ヲ御送付相煩度
申添候

一八總第九一一一號

覺書

防空對策用資材配當ニ関スル軍需省
防空總本部間ニ於ケル事務調整ニ関
スル件

防空對策用資材ノ配當ハ左記ニ依リ行
モノトス

記

- 一 防空對策用資材ノ各廳別配當數量ハ軍
需省ニ於テ決定スルコト
- 二 前號ノ決定ニ関シテハ豫メ軍需省ニ於

テ防空總本部ト協議スルコト

三 軍需省前號ノ決定ヲ爲シタルトキハ防
空總本部ニ通知スルコト

四 防空對策用資材ノ需要調書其ノ他防空
對策用資材ノ配當ニ関シ必要ナル資

八 各需要廳ニ於テニ通ヲ作成シ之ヲ軍
需省及防空總本部ニ提出セシムル様
置スルコト

五 第二號ノ具體的措置ニ付テハ別途之ヲ
決定スルコト

381705

ル本覺書ハ之ヲニ通作成シ各一通ヲ保
モノトス

昭和十八年十二月十一日

軍需次官

印

防空總本部次長

印

供覽

381706

防廳一九四九年三月九日

昭和三十九年三月九日

防廳本廳次

内閣書記官長殿

各機關等ノ整理ニ關スル件

昭和十九年二月二十五日閣議決定「次級非常措置要綱」中第一號ノ別紙ノ通り疎開區域關係郡縣警察官長及警備隊長ニ通知致す候事御承知
格取度



裏面白紙

381707



防務一九號第九四號

昭和十九年三月九日

防務總本部次長

疎開區域部廳對景長官宛

各種團體等ノ整理ニ關スル件

昭和十九年二月二十五日閣議決定「決戦非常措置要綱」三ノ(4)及(5)
ニ基キ左記ニ依リ實施相成度尙之方具體計畫三月末日迄ニ報告相成
此段依命及進陳候

記

- 一、各種團體、地方會社出張所、社交俱樂部等ニ就テハ此ノ際至急調
査ヲ行ヒ現状勢下ニ鑑ミ整理セラルベキモノ又ハ疎開區域外ニ疎
開セシムルヲ適當ト認ムルモノニ付テ強力ナル指導勸奨ヲ行フコ
ト
- 二、養老院、精神病院等ニ就テハ極力速ニ地方疎開又ハ整理ヲ行フコ
ト
- 三、公共團體經營ニ係ル施設ニ付テハ昭和十九年三月三日防務一九號第
第八八號「公共團體ノ施設ノ地方疎開ニ關スル件」ニ依ルコト
- 四、右ニ伴ヒ團體事務所等ノ再配置ヲ行ヒ防務設備良好ナルモノニ集
中セシメ木造等ニシテ脆弱ナル建物ハ之ヲ撤去セシム



竊奉條藤會外名義年數第言至號聘多官及官待遇者願之件第條成之華政
務委員會建議署職員之由華民國民將聘應之許與茲職者關之規定適用件
右謹之裁可之仰之

昭和十九年四月六日

內閣總理大臣東條英機

內閣

内閣議第三三四號

起 昭和十九年四月五日 閣議 昭和十九年四月七日 施行
案 昭和十九年四月五日 閣議 昭和十九年四月七日 施行
裁可 昭和十九年四月五日 閣議 昭和十九年四月七日 施行

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣

海軍大臣

大東亞大臣

内務大臣

司法大臣

農商大臣

大藏大臣

文部大臣

軍需大臣

陸軍大臣

厚生大臣

運輸通信大臣

藤原國務大臣

内務技手佐藤益男外一名大正九年勅令第三百六十七號（聘用ヒ

ラレタル官吏及官吏待遇者ニ關スル件）第一條ニ依リ華北政務

委員會建設總署職員トシテ中華民國國民政府ノ聘用ニ應スルノ

許可ヲ與ヘ竝在職者ニ關スル規定適用ノ件ハ上裁ヲ經テ左ノ通

指令相成然ルヘシ

指 令 案

内務技手佐藤益男外一名大正九年勅令第三百六十七號（聘用ヒ

ラレタル官吏及官吏待遇者ニ關スル件）第一條ニ依リ華北政務

委員會建設總署職員トシテ中華民國國民政府ノ聘用ニ應スルノ

許可ヲ與ヘ竝在職者ニ關スル規定適用ノ件上奏ヲ經テ

381710

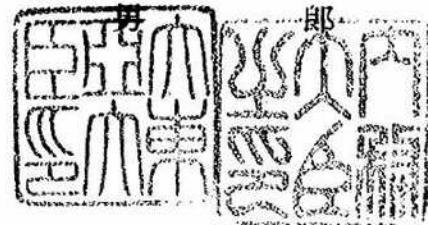
乙第二四一號

三四

昭和十九年四月四日

内務大臣 安藤 紀三郎

大東亞大臣 青木 一



内閣總理大臣 東條 英機 殿

内務技手 佐藤 益男

同 村瀬 章

内務省

右者昭和十九年四月十日ヨリ約三年間中華民國國民政府（華北政務委員會建設總署）ノ招聘ニ應シ在職者ニ關スル規定ヲ適用スルノ件
大正九年勅令第三百六十七號第一號ニ依リ御裁可被爲在度
右閣議ヲ請フ

願

小官儀

今般現官、儘中華民國政府(華北政務委員會
建設總署)ノ招聘ニ應レ在職者ニ關スル規定ノ適
用ヲ受ケ度ニ付御許可相成度此致及御願候也

昭和十九年四月 日

內務技手 佐藤益男

內務大臣 安藤紀三郎 殿

381712

願

小官儀

今般現官ノ儘中華民國政府(華北政務委負會
建設總署)ノ招聘ニ應ニ在職者ニ關スル規定ノ適
用ヲ受ケ度ニ付御許可相成度此校及御願候

昭和十九年四月 日

内務技手村瀨

章



内務大臣安藤紀三郎殿

381713

大日本帝國政府

寫

官人第 二〇八五號

昭和十八年五月八日

大東亞次官 山本熊一 印

內務次官 山崎巖殿

黃河缺潰口締切工事並ニ惠民土木事業

要員斡旋方依頼ノ件

標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通在北京塩澤公使ヨリ申越タルヲ以テ
之カ要員御斡旋方特ニ御配意相煩度此段御依頼申進ス

裏面白紙

大日本帝國政府

第六五七號交建一八

昭和十八年四月七日

在北京

特命全權公使 塩澤清宣

大東亞大臣 青木一男 殿

黃河缺潰口縮切工事並ニ惠民土木事業要員斡旋方依頼ノ件

黃河缺潰口縮切工事ニ關シテハ建設總署ヲ指導シ調査計畫ヲ進メ
居ル處之カ準備及實施ニ當リテハ熟練技術者多數ヲ必要トスル見
込ニ有之尙又華北ハ目下食糧増産其ノ他緊急事業推進中ニシテ既
ニ之等從事者ニモ不足ヲ來シ居ル現況ニ付建設總署ニ於テハ左記
條件ニ依リ内地技術者ヲ招聘致度要請アリ當方トシテモ之カ實現
ヲ期シ度所存ニ付之カ要員ヲ内務省方面ヨリ斡旋方御配慮相煩度

裏面白紙

大日本帝國政府

追而差當り調査準備ノタメ上級要員三五名ハ至急斡旋ヲ得度
下級要員九〇名ハ工事着手ノ際逐次斡旋相煩度申添フ

記

一 招聘人員

上級人員

技師級 十名

技手級 二十名

資材及經理ニ經驗アル者 屬級 五名

計 三十五名

下級要員

技術員 二十名

技術備人 七十名

計 九十名

二 招聘ノ資格

關係規程ニ照シ現官職相當ノ資格ヲ附ス

三 期 間

概ネ三ヶ年トスルモ工事ノ進捗狀況ニ依リ協議ノ上延伸ス
ルコトアルモノトス

裏面白紙

381725

大日本帝國政府

四給 興

建設總署現行規程ニヨルモ特殊ノ者ニ就テハ協議ノ上決定
スルモノトス

赴任及歸國旅費ヲ支給ス

本信寫送付先 南京大使

備考 俸給其他ノ給與

佐藤益男

本俸三〇〇円

諸手当二四〇円

計 五四〇円

村瀬 章

本俸二七〇円

諸手当一七〇円

計 四四〇円

裏面白紙

381717

寫

大日本帝國政府

官人第二〇八五號

昭和十八年十一月十日

大東亞次官 山本 熊一 圖

內務次官 唐澤 俊樹 殿

件 黄河缺潰口締切工事並惠民土木事業要員斡旋方ノ

標記ノ件ニ關シ五月十日附官人第二〇八五號ヲ以テ照會致シ九月十三日附丙第二九八五號ヲ以テ御推薦ヲ得タル處左記願書ノ通待遇内定セル旨申越タルニ付差支ナクハ貴方手續可然御取計相煩度申進ス

裏面白紙

381719

大日本帝國政府

薦任五等十一級（月收五四〇圓）
委任六等二級（同 四二六圓）
右ノ外華北在任ノ扶養家族一名ニ付五圓ヲ給ス
現職招聘ニ付右待遇者トシテ適當ノ職名ヲ附ス

吉川 福雄
上田 正夫

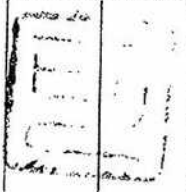
裏面白紙



位勲爵	博士	府縣族籍	生年月日	原籍	現住所	年號	月	日	任	免	賞	罰	事故	官	衛
			明治四十二年十一月廿六日	愛知縣豊橋市魚町	愛知縣豊橋市魚町	昭和	二	八	愛知縣立豊橋中學校卒業						
						大	一	七	名古屋高等工業學校土木科卒業						
						七	一	七	工手ヲ命ス	日給壹圓七拾錢ノ給ス					豊橋市
						六	二	七	願ニ依リ職ヲ免ス						
						六	二	八	土木工手ヲ命ス	月俸八拾俵ノ給ス					愛知縣
						五	三	〇	土木部河港課勤務ヲ命ス						
						八	七	八	土木部河港課勤務ヲ命ス						
						九	六	三	〇	月俸五拾八圓ノ給ス					
履歴用紙		内務省		一	二	六	三	〇	津島土木工區事務所勤務ヲ命ス						
				一	一	七	四		學母土木工區事務所勤務ヲ命ス						
						一	二	二	一	月俸六拾圓ノ給ス					
						一	三	八	三	一	土木部道路課勤務ヲ命ス				
						一	二	二	一	七	七	七	七		
						一	四	二	〇	御用濟ニ付職務ヲ免ス					
										愛知縣道路技手兼土木技手ニ任ス					
										判任官三等待遇 七級俸ヲ給ス					
										土木部道路課勤務ヲ命ス					
										海軍省委託事務ヲ囑託ス					
						一	二	二	一	月俸七拾圓ノ給ス					
						一	五	八	二	六	願ニ依リ本職並兼職ヲ免ス				
						八	二	九			内務技手補ヲ命ス	月俸八拾五圓	給與		内務省神戸 土木出張所

381722

位勳爵	博士	府縣族籍	生年月日	大正六年八月十七日	名氏舊	名氏	村	瀨	章
原籍	鳥取縣鳥取市御弓町十八番地	現住所	鳥取縣鳥取市御弓町十八番地	名氏舊					
年號	昭和二	月	五	日	任	免	賞	罰	事故
昭和二	五	兵庫縣立第三神戸中學校卒業							
四	四	神戸高等工業學校土木工學科入學							
一四	一〇	内務技手補ヲ命ス 月俸六拾五圓給與							
		那賀川改修事務所從務ヲ命ス							
		三 一 二 神戸高等工業學校土木工學科卒業							
		七 三 一 爾今月俸金六拾六圓ヲ給ス							
		一 五 一 爾今月俸金七拾六圓ヲ給ス							
		一 六 一 爾今月俸金八拾壹圓ヲ給ス							
履 歷 用 紙		内 務 省							
		一 七 一 一 二 詫間施設事務所從務ヲ命ス							
		三 一 一 爾今月俸金八拾六圓ヲ給ス							
		一 八 一 一 爾今月俸金九拾壹圓ヲ給ス							
		四 一 一 詫間施設工事務務所從務ヲ命ス							
		八 二 七 任内務技手 給五級俸							
		神戸土不出張所勤務ヲ命ス							
		工務部勤務兼詫間施設工事務務所從務ヲ命ス							
		二 一 一 任運輸通信技手 給五級俸							
		第三港湾建設部勤務ヲ命ス							
		神戸港工事務務所從務ヲ命ス							
		一九二一 任内務技手							
		給五級俸							
		近畿土木出張所勤務ヲ命ス							



國務院應聘中同國政府ヲ奉給及其他ノ給與ヲ受クルノ件

國務院應聘中同國政府ヲ奉給及其他ノ給與ヲ受クルノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十九年四月六日

內閣總理大臣東條英機



內

閣

1867

内務技手 佐藤 益男
同 村 瀬 章

右者昭和十九年 四月十日ヨリ約三年ノ豫定ヲ以テ中華民國國民政
府華北政務委員會建設總署ノ招聘ニ應シ同國ヨリ俸給其ノ他ノ給
與ヲ受ケ度旨願出タルニ付官吏服務紀律第八條第二項ニ依リ御允許
被爲在度謹テ 奏ス

昭和十九年 四月 四日

内務大臣 安藤 紀三郎

内務省



めくれず

願

小官儀

38617246

今般昭和十九年四月十日ヨリ約三年ノ
豫定ヲ以テ中華民國國民政府(華北政務委員
會建設總署)ノ招聘ニ應ジ同國ヨリ俸給其ノ
他ノ給與ヲ受ケ度ニ付御許可相成度此般
奉願上候也

昭和十九年四月 日

内務技手佐藤益男

内務大臣安藤紀三郎殿

一、俸給其他、給與
本俸 三百圓
諸手当 貳百四十圓

計 五百四十圓

願

小官儀

今般昭和十九年四月十日ヨリ約三年ノ豫
定ヲ以テ中華民國國民政府(華北政務委員會建
設總署)ノ招聘ニ應ジ同國ヨリ俸給其ノ他ノ
給與ヲ受ケ度ニ付御許可相成度此校
奉願上候也

昭和十九年 四月 日

内務技手村瀨

章



内務大臣安藤紀三郎殿

記

一、俸給其他、給與
本俸 貳百七拾圓
諸手当 百七拾圓

計
四百四拾圓

めくられず

381728

大日本帝國政府

寫

官人第二〇八五號

昭和十八年五月八日

大東亞次官 山本熊一 閣

內務次官 山崎 巖 殿

黃河缺潰口締切工事並ニ惠民土木事業

要員斡旋方依頼ノ件

標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通在北京塩澤公使ヨリ申越タルヲ以テ
之カ要員御斡旋方特ニ御配意相煩度此段御依頼申進ス

裏面白紙

381729

大日本帝國政府

第六五七號交建一八

昭和十八年四月七日

在北京

特命全權公使 堀 澤 清 宣

大東亞大臣 青 木 一 男 殿

黃河缺潰口締切工事並ニ惠民土木事業要員斡旋方依頼ノ件

黃河缺潰口締切工事ニ關シテハ建設總署ヲ指導シ調査計畫ヲ進メ
居ル處之カ準備及實施ニ當リテハ熟練技術者多數ヲ必要トスル見
込ニ有之尙又華北ハ目下食糧増産其ノ他緊急事業推進中ニシテ既
ニ之等從事者ニモ不足ヲ來シ居ル現況ニ付建設總署ニ於テハ左記
條件ニ依リ内地技術者ヲ招聘致度要請アリ當方トシテモ之カ實現
ヲ期シ度所存ニ付之カ要員ヲ內務省方面ヨリ斡旋方御配慮相煩度

裏面白紙



大日本帝國政府

追而差當リ調査準備ノタメ上級要員三五名ハ至急斡旋ヲ得度
下級要員九〇名ハ工事着手ノ際逐次斡旋相煩度申添フ

記

一 招 聘 人 員

上級人員 技師級 十名 技手級 二十名

資材及經理ニ經驗アル者 屬級 五名

計 三十五名

下級要員 技術雇員 二十名

技術備人 七十名

計 九十名

二 招 聘 ノ 資 格

關係規程ニ照シ現官職相當ノ資格ヲ附ス

三 期 間

概ネ三ケ年トスルモ工事ノ進捗狀況ニ依リ協議ノ上延伸ス
ルコトアルモノトス

裏面白紙



381731

大日本帝國政府

四給 與

建設總署現行規程ニヨルモ特殊ノ者ニ就テハ協議ノ上決定
スルモノトス

赴任及歸國旅費ヲ支給ス
本信寫送付先 南京大使

備考 俸給其他給與

佐藤益男

本俸

三〇〇円

諸手当

二四〇円

計

五四〇円

村瀬

章

本俸

二七〇円

諸手当

一七〇円

計

四四〇円

裏面白紙

381732



大日本帝國政府

官人第二〇八五號

昭和十八年十一月十日

大東亞次官 山本 熊一 剛

內務次官 唐澤 俊樹 殿

件 黃河缺潰口締切工事並惠民土木事業要員斡旋方ノ

標記ノ件ニ關シ五月十日附官人第二〇八五號ヲ以テ照會致シ九月十三日附丙第二九八五號ヲ以テ御推薦ヲ得タル處左記頭書ノ通待遇內定セル旨申越タルニ付差支ナクハ貴方手續可然御取計相煩度申進ス

裏面白紙



381734

大日本帝國政府

右ノ外華北在住ノ扶養家族一名ニ付五圓ヲ給ス
現職招聘ニ付右待遇者トシテ適當ノ職名ヲ附ス

薦任五等十一級（月收五四〇圓）
委任六等二級（同 四二六圓）

吉川 福雄
上田 正夫

裏面白紙



位勳爵	博士	府縣族籍	大正六年八月十七日	生年月日	鳥取縣鳥取市御弓町十八番地	原籍	現住所	年號月日	昭和二	五	任	免	賞	罰	事	故	官	衛
氏名	村瀨	氏名	舊名															
履 歷 用 紙																		
内 務 省																		
一七	一	二	託問施設事務所從務ノ命ス	内務省神戸 士不出張所														
一八	三	一	爾今月俸金八拾六圓ノ給ス															
一八	三	一	爾今月俸金九拾壹圓ノ給ス															
一四	一	一	託問施設工事務務所從務ノ命ス															
八二	七	任	内務技手 給五級俸	内務省														
			神戸士不出張所勅務ノ命ス															
			工務部勅諭託問施設工事務務所從務ノ命ス	内務省神戸 士不出張所														
二	一	一	仕運輸通信技手 給五級俸	内務省 通信省														
			第三港灣建設部勅務ノ命ス	内務省 港灣建設部														
			神戸港工事務務所從務ノ命ス	内務省 港灣建設部														
一九	三	八	任内務技手	内務省														
			給五級俸															
			近畿土木出張所勅務ノ命ス															

内務大臣官房 甲第一五八三號

別紙 佐藤益男外壹名外國政府ノ招聘ニ應シ同國ヨリ給與ヲ受クルノ件
上奏書進達ス

昭和十九年四月四日

内務大臣 安藤 紀三郎

内閣總理大臣 東條 英機 殿

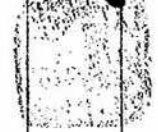
内務省



内務技師高田昭滿洲國政府ノ委囑ニ
應シ且旅費ヲ受クルノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十九年四月六日

内閣總理大臣東條英機



内閣

381741

1047

内務技師 高田 昭

右者滿洲國政府ノ委囑ニ應シ同國政府ヨリ旅費ヲ受ケ度旨願出タル
ニ付官吏服務紀律第八條第二項ニ依リ御允許被爲在度

謹テ 奏ス

昭和十九年四月 日

内務大臣 安藤 紀三



内務省

理三
土本守新

381742

願

小官儀

今般滿洲國政府、委嗚^ニ應^レ同國政府ヨリ旅費ヲ
受^ケ度^ニ行^ハル^ニ御許可相成度此枚奉願
上候也

昭和十九年三月十八日

内務技師 高田

昭

内務大臣安藤紀三郎殿

記

一 期間 十日間

一 旅費 金六百圓

めくれず

381743

寫

大日本帝國政府

陸滿密第八八五號

日本現職官吏ニ對シ滿洲國務務委囑ニ關スル件照會

昭和拾八年拾貳月參拾日

陸軍次官團

內務次官殿

左記ノ者ニ對スル首題ノ件ニ關シ滿洲國政府ヨリ關東軍ヲ通シ別紙寫ノ通申出有之候ニ付御配慮相煩度此段及照會候也

左記

內務省國土局河川課技師 高田 昭

裏面白紙



別紙

日本現職官吏ニ對シ事務交關ニ關スル件

昭和十八年十二月二十八日

關 東 軍 參 謀 長

國 軍 次 官 殿

大東港建設事業ニ關シ同地鐵甲村貯水池堰堤ハ急速完成ノ要アリ
之カ堰堤基礎及附帶工事タル區道政ニ溢水路ノ位置ハ地質ノ關係
上精密ナル調査ヲ要スル處左記ノ者ハ水豐、豐南ノ堰堤基礎調査
ヲ爲シ之等工事ノ權威者ナルニ付左記ノ通り現地調査ヲ依頼シ事
業ノ完竣ヲ期シ度ニ付交渉万配慮煩度

左 記

- 一 氏 名 内務省國土局河川課技師 高 田 昭
- 一 期 間 承認ノ日ヨリ十日間ノ豫定
- 一 用 務 大東港鐵甲村貯水池堰堤基礎及附帶工事タル區道
政ニ溢水路ノ位置ノ調査ノタメ
- 一 旅 費 六百圓支給ス

(終)

381745

内務大臣官房 甲第一五六四號

別紙 高田 昭御允許 ノ件

上奏書進達ス

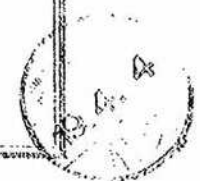
昭和十九年四月四日

内務大臣 安藤紀三郎



内閣總理大臣 東條英機殿

内務省



381746

内乙第九

昭九四月十三日

決

年

月

日

行

年

月

日

内閣官房總務課長

内閣書記官

内閣書記官

昭和十九年四月十四日

内閣官房總務課長

内閣官房人事課長、會計課長

参考官室
内閣官房總務課長

内閣恩給局長、統計局長

法制局書記官、賞勳局庶務課長

情報局總裁官房秘書課長

宛(各通)

技術院總裁官房秘書長
中央航空研究所總務課長
總力戰研究所長
內閣總理大臣秘書官
國務大臣秘書官

身許票整備ニ関スル件
標記ノ件ニ付別紙ノ通防空總本部警防局長ヨリ
通知之有候條參考ノ爲送付ニ及_字候

381747

防務一九四九年四月十二日

昭和十九年四月十二日

防務總本部警防局長

内閣官房總務課長殿

身許票整備ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ今般別紙寫ノ通り各部廳府縣長官宛通牒
致置候條及通知候也



裏面白紙



381748

防務一九發第二九號

昭和十九年四月十二日

防空總本部密防局長

各部廳府縣長官 殿

身許票ノ整備ニ關スル件

空襲時ニ於ケル死傷者又ハ避難者等ノ身許ヲ明瞭ナラシムル爲左記身許票ヲ整備セシムル様御指導相成度此段及運際候也

追而既存ノモノニシテ概ネ左記ニ類スルモノヲ整備シアル場合ハコノ際俄ニ更改スルノ要ナキモ將來整備スベキモノニ付テハ必ズ左記ノモノヲ整備セシムル様相成度

一、型式

〇 記

6 種

血液型			
官公署、學校、工場等 所屬機關名及身分	本籍	住所	氏名
			年齢

二、材料

白色布地又ハ強靱ナル厚紙、板片等

三、取扱

上衣上前胸部裏側ニ縫付ケルカ或ハポケット内ニ携帯スルコト

四、整備區域

防空重要都市居住者ニ指導整備セシムルモノトス



大日本帝國政府

供覽

381749

防業一九發第五〇號

昭和十九年五月十日

庶務課
長関了

内閣書記官長殿

内閣書記官

内閣書記官

防空總本部次長



19.5.13
書文

決戰非常措置要綱ニ基ク工場防空強化對策
實施要領ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ四月二十七日閣議決定相成候處右ハ緊急ニ強化ノ
要有之ヲ以テ不取敢本日各都廳府縣長官宛別紙寫ノ通通牒致置候
條御了知ノ上格別ノ御配意御協力相煩度此段及通知候也

内乙一ニ

裏面白紙

381750



防業一九五第五〇號

昭和十九年五月十日

防空總本部長

各都廳府縣長官殿

決戰非常措置要綱ニ基ク工場防空強化對策
實施要領ニ關スル件

重要工場（事業場ヲ含ム）ニ於ケル防空態勢ノ急速ナル整備強化ニ關シテハ密年八月「工場事業場防空緊急對策要綱」ノ閣議決定アリ爾來屢次ノ指示通牒ニ依リ夫々重點的ニ指導強化サレツ、アルモ今般更ニ標記ノ件ニ關シ四月二十七日別紙ノ通閣議決定相成候ニ付テハ將來各所管省ニ於ケル方針決定ノ都度指示協力實施方通牒ノ豫定ナルモ不取敢左記御留意ノ上去ル四月十八日附防業一九發第四五號「重要生産關係諸施設ノ防空態勢強化ニ關スル件」通牒ノ趣旨ニ依リ關係地方官廳

等ト一層緊密ニ連繫シ協力一体トナリ急速ニ重要工場ノ防空態勢ヲ確立シ以テ今次閣議決定ノ趣旨具現ニ關シ格段ノ努力ヲ致サレ度依命此段及通牒候也

記

- 一 要領「一」ノ超重要産業等ノ分散措置（超重要工場等ノ分散疎開）ニ付テハ關係者ニ於テ決定ノ都度指示スル豫定ナルヲ以テ地方ニ於テハ之ニ伴フ勞務、輸送、勤勞者ノ住宅、食糧ノ配給等ニ關シ協力ノ上之ガ急速圓滑ナル實施ヲ圖ルコト
- 二 要領「二」ノ重要工場ニ對スル防空對策ノ緊急實施基準ニ付テハ概ネ既往ニ於テ指示シアル中央防空計畫及工場防空指針並ニ製鐵、製鋼、造船、車輛、瓦斯、輕金屬、炭礦等ノ防空整備要綱（未定稿）ニ依ルコト、シ防空措置ノ急速完成ヲ期スルコト
- 三 要領「三」ノ業種別防空基準工場ハ差當リ中央ニ於テ現地調査指導ヲ實施シタル工場（別紙第一業種別基準工場表）参照トスルモ

381751

逐次設定ノ五指示スル豫定ナルコト
要領「三」ノ重要ナル協力工場ノ防空的企業系列ノ整備及「四」ノ各業種別ノ
被害時ニ於ケル復舊ノ轉換ノ爲ノ順位及轉換計畫ニ付テハ各所管省
ノ方針決定後指示スルコト
要領「五」ノ現場指導ニ付テハ四月十八日附防業一九發第四五號通
達「三」ノ現場指導及査察ノ實施ニ依リ協力ニ實施スルコト、但シ
要領「四」工場ハ何レモ防空法施行令第十六條ノ四ノ規定ニ依リ近ク
所管大臣ノ指定アル豫定ニ付キ現場指導班組織ノ場合ハ必ず關係
地方官廳係官ヲ加フルト共ニ各統制會トモ連絡協力ノ下ニ實施スル

381752

別紙第一

業種別防空基準工場表

業種別	工場名	場所
軽金属	日本輕金屬清水工場 蒲原工場	靜岡縣清水市
製鐵	廣畑製作所	其庫縣
造船	三菱重工業(株) 横濱造船所	横濱市
車輜	日本車輜製造(株) 本社工場	名古屋市
瓦斯	斯東京瓦斯(株) 鶴見工場	川崎市
炭	三井三池鑛業所	大牟田市
製鍊	日本鑛業(株) 佐賀之關製鍊所	大分縣佐賀之關町
ソーダ硝子、工業藥品	旭硝子(株) 牧山工場	八幡市
染料 火藥 原料	三井化學(株) 三池染料工業所	大牟田市

重要産業ニシテ同種品目ノ大部ヲ同一地域ノ工場ニ於テ生産シアルモノニ付テハ生産ノ低下ヲ克服シツ、緊急ニ之ガ分散ノ措置ヲ講ズ

(航空機、造船並ニ之ガ關聯工業等)

(陸) 超重要機械又ハ施設ノ分散ニ付テモ右ニ準ジ措置ス

重要工場ニ對シ防空對策ノ緊急實施基準ヲ示シ極力未整備ノ點ナカラシムル如ク五月末日ヲ目途トシテ防空措置ヲ急速實施セシム

右ニ關聯シ業種別ニ防空基準工場ヲ設定ス

重要工場ノ重要ナル協力工場ニシテ遠隔ノ危險地域ニ存在スルモノハ之ヲ安全ナル近接地域ニ在ルモノニ系列ヲ切換ヘ又ハ移轉スル等防空的見地ヨリ企業系列ノ整備ヲ急速ニ促進ス

重要工場ニ付各業種毎ニ被害時ニ於ケル復舊、轉換ノ爲ノ順位ヲ五月末日迄ニ調査概定スルト共ニ轉換計畫ヲ樹立ス

工場ノ各所管省ハ關係中央、地方官衙、統制會等ト協力ノ下ニ速ニ重要ナル工場ノ各現場ニ就キ防空措置ヲ具體的ニ指導スルト共ニ之ガ具現普及ヲ強力ニ推進ス

備考

(一) 本實施要領ニ基ク輸送ニ關シテハ各種緊急輸送トノ調整ヲ圖リツ、決定方針通り實施シ得ル如ク處置スルモノトス

(二) 空襲被害ニ對スル復舊ノ爲ノ資材ノ配當斡旋ニ關シ軍需省ニ於テ一元的ニ急速ナル處置ヲ講ジ得ル如ク速ニ考究スルモノトス



防務一九三九年四月二十八日

昭和十九年四月二十八日

防務總本部 次長

各府縣長官殿

重要生産關係諸施設ノ防空態勢強化ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ客年八月閣議決定ノ「工場、事業場防空緊急対策要綱」一港灣防空緊急対策要綱一及工場防空指針並ニ開港通關等ノ趣旨ニ基キ夫々重點的ニ整備強化サレツ、アルモ決戦下ノ現情勢ニ鑑ミ重要工場、事業場並ニ交通施設、供給施設等重要生産關係諸施設ノ防空態勢強化ハ刻下喫緊ノ要務ナルニ付正記ニ依リ關係地方官廳等ト緊密ニ連携シ更ニ重點的ニ指導査察ヲ實施スル等生産防空態勢ノ急進ナル整備強化ニ際シ格段ノ努力ヲ致シ以テ總動員下ノ生産確保ニ遺憾ナキ

ヲ期セラレ所 此段及通關等

追而本件ノ實施ニ關シテハ關係各省及地方關係官廳ニ對シテモ協力方倍懇切指導御了知相協望申添候

記

一 本件實施ノ對象

(一) 重要工場、事業場ハ邊管リ防空法第三條ノ規定ニ依リ指定セラレアルモノ及重要鐵山並ニ事業ノ性質上地方長官ニ於テ特ニ重要ト認ムルモノトスルコト

(二) 港灣ハ客年八月閣議決定アリタルモノ及防空法施行令第十六條ノ四第三號ノ規定ニ依リ津檢頭偕大臣ノ指定（近日中ニ指定アル筈スル港灣トスルコト

(三) 地方鐵道、軌道ハ防空法第三條ノ規定ニ依リ指定（近日中ニ指定ノ豫定）スル地方鐵道、軌道トスルコト

二 防空計畫ヲ設定就ニ檢討整備

中央防空計畫、都府縣防空計畫、緊急防空計畫ニ關スル件通牒(二月十五日附防總一九發四七號)及工場防空指針等ニ準據シ五月上旬中ニ關係責任者ヲ召集指導シ六月中旬迄ニ防空計畫未設定ノモノハ之ヲ設定セシメ、設定シアルモノニ付テハ其ノ内容ヲ檢討整備セシムルト共ニ新防空業務ニ關スル計畫ヲ追加セシメ實施上遺憾ナキヲ期セシムルコト

右ニ依リ整備シタル防空計畫ハ六月二十日迄ニ提出セシメ取纏メノ上各一部ヲ送付スルコト

三 現地指導及查察ノ實施

地方關係各廳ト協議ノ上、都府縣、陸海軍、軍需管理、鑛山監督局、鐵道局、海運局、遞信局等ノ各關係官ヲ以テ對象別ニ其ノ都府縣現地指導班ヲ設ケ左ニ依リ指導及查察ヲ實施スルコト

(一) 現地指導及查察計畫

客年八月ノ函達決定ニ基キ中央及地方ニ於テ現地指導ヲ實施シタルモノニ付テハ六月末日迄ニ前回指示シタル對策ノ實施狀況等ニ付一日乃至二日ノ豫定ヲ以テ查察ヲ實施スルコト

2 前號以外ノ重要ナルモノニ付テハ五月末日迄ニ概ネ二日ノ豫定ヲ以テ現地指導ヲ實施スルコト但シ四月十二日附防總一九發第三九號ニ依リ關係府縣ニ通牒實施中ノモノヲ除クコト

3 前二號ニ依リ實施計畫ヲ定メタル場合ハ之ヲ報告スルコト但シ別紙第一ノ工場、事業場及事業ノ性質等ニ依リ特ニ指導困難ト認めラル、モノニ付テハ中央ヨリ隨時指導官ヲ派遣協力セシムル豫定ナルヲ以テ事前ニ其ノ日時等打合ノ上決定ノコト

(二) 現地指導及查察ノ重點

現地指導及查察ノ實施ニ當リテハ特ニ左ノ事項ニ重點ヲ指向スルト共ニ手持資材、代用資材、既存施設資材ノ最高度利活用等創意工夫ニ依リ極力防空施設ヲ整備強化セシムルコト

防空設備指導體制確立ニ關スル事項

防空設備指導體制確立ニ關スル事項

別紙一

中央ヨリ指導官派遣ノ要アリト認ムル工場事業場表

府縣名	工場事業場名
神奈川縣	三菱石油川崎工場
東京都	旭電化尾久工場
北海道廳	函館船渠函館造船所、合同酒精旭川工場
岩手縣	日鐵釜石製鐵所
長崎縣	三菱重工業長崎製鋼所、三菱重工業長崎造船所、川南工業香燒島造船所 三菱重工業長崎兵器製作所
和歌山縣	住友金屬和歌山工場、東亞燃料和歌山工場
埼玉縣	日本特殊鋼管戶田工場、チーゼル機器松山工場、鐘淵チーゼル工業
新潟縣	日本輕金屬新潟工場、日本曹達二本木工場、信越化學工業直江津工場 理研工業柏崎工場、新潟鐵工所新潟工作機第一工場
群馬縣	關東電氣工業澁川工場、關東電氣與業群馬原料工場
長野縣	昭和電工大町工場
山形縣	帝國マグネシウム酒田工場
愛媛縣	住友アルミ新居濱工場、住友化學新居濱工場
富山縣	日本海船渠工業
山口縣	理研金屬宇部工場、三菱重工業彦島造船所 神戶製鋼長府工場、第一伸銅金屬工場
熊本縣	東海電極田ノ浦工場
千葉縣	日本精機習志野工場、日本精機我孫子工場
廣島縣	東洋工業本社工場、三菱工作機械廣島製作所、日立造船因島造船所 向島船渠向島造船所、日本製鋼所廣島製作所
三重縣	神戶製鋼山田工場、神戶製鋼鳥羽工場
岡山縣	三井造船玉造工場
佐賀縣	川南工業浦崎工場
岐阜縣	揖斐川電氣工業
栃木縣	古河電氣工業日光電氣精鋼所
福島縣	保土谷化學郡山工場
島根縣	日立製作所安來工場

別紙第二

生産防空應務強化現地指導査察ニ關スル方針（九四、八）

一、現地指導及査察ニ際シテハ當該工場、事業場等ノ戰時生産ニ支障ヲ來スガ如キコトナキ様留意スルコト

二、現地指導査察ノ實施ニ當リテハ從來指示シアル指導方針ニ準據スルコト、シ特ニ之ガ修正ノ要アル場合ハ其ノ取扱ニ慎重ヲ期シ緊急已ムヲ得ザル場合ノ外現地ニ於ケル直接指示ヲ保留シ中央關係官職ノ指示ヲ受ケ措置スル等指導方針ノ一元化ヲ圖ルコト

三、地元指導責任官（地元警察消防署長等）トノ連絡ヲ密ニシ特ニ防空計畫、特設防護團ノ組織編成、防護監視、通信、警報傳達等地域計畫ト密接ニ關聯スル事項、及教育訓練ニ關スル事項ニ付テハ地元責任指導官ト打合ノ上指導スルコト

四、設備資材整備ニ關スル事項ニ付テハ物動計畫上ノ判定ヲ基礎トシ苟モ指導シタル結果指導官職ニ於テ資材ノ手當ヲ要スル如キ場合ニ於テハ事前ニ檢當應ト充分連絡ノ上指導スルコト

（二）ノ既往ノ指導方針參考

- (一) 中央防空計畫（昭和一八三三一内訓）
- (二) 昭和十八年度中央防空計畫（昭和一八七一三内訓）
- (三) 工場、事業場防空緊急對策要綱及關係通牒（昭和一八八二七閣議決定）
- (四) 緊急防空計畫書設定上ノ基準（陸海省）
- (五) 緊急防空計畫書ニ關スル通牒（昭和一九二一五）
- (六) 時局防空必携
- (七) 工場防空指針
- (八) 鑛山防空指導要領
- (九) 鋼鐵製鋼工場防空整備要綱
- (十) 造船工場防空整備要綱
- (十一) 車輛工場防空整備要綱
- (十二) 炭鐵事業場防空整備要綱
- (十三) 其ノ他工場、事業場防空ニ關スル通牒等

381759

内乙第一三號

昭和十九年五月十七日

昭和十九年五月十七日

内閣官房總務課長

内閣書記官

内閣理事官

案

昭和十九年五月十七日

内閣官房總務課長

内閣官房人事會計兩課長

内閣官房參事官室

内閣官房總務課長

内閣恩給統計兩局長

法制局書記官

賞勳局庶務課長

情報局總裁官房文書課長

技術院總裁官房庶務課長

中央航空研究所總務課長

總力戰研究所長

內閣總理大臣秘書官

國務大臣秘書官

（宛（各通））

各種會議等ニ関スル件

標記ノ件別紙ノ通内務大臣官房文書課長ヨリ申越之有候條此様程

牒ニ及ビ候

381760

内務省發書第一二號
昭和十九年五月十六日

内閣官房總務課長 殿

各府省廳等ニ關スル件

當省官房人事課所管ニ係ル地方長官、地方關係官及其ノ他ノ會議
ニ關スル事項ハ爾今官房文書課ニ於テ登錄ルコトト相成候ニ付關係
ノ向ニ對シテモ更然御注意ヲ煩フ

内務大臣官房文書課



19.5.17
書文

裏面白紙

381761

内乙 一五

標七三

案(一)

昭和七年七月三日

内閣書記官長

情報局總裁

技術院總裁

宛(各通)

行政查察委員制度ノ運営ニ関スル件

標記ノ件ニ付別紙ノ通内務次官ヨリ申越之有リ候條
移牒ニ及ビ候

念一為

新案ニ依リ

案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ

案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ

案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ

案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ

案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ

案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ

案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ

案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ 案ニ依リ

(念一)

381762

大日本帝國政府

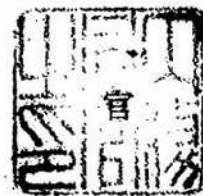
內務省發地第九七號
昭和十九年七月一日

內閣書記官長殿
內務次

行政查察委員制度ノ運営ニ關スル件

行政查察委員制度ト地方行政トノ密接ナル關係ニ鑑ミ本制度ノ
運営ニ關シ別紙ノ通都廳府縣長官宛通牒致候處本制度ノ圓滑且
效果的ナル運営ヲ確保スル爲中央ニ於テ關係各廳ト當省トノ緊
密ナル連繫ヲ保持スルノ要緊切ナリト被存候ニ就テハ本查察實
施ノ場合ニ於テハ其ノ都度豫メ之ガ實施ノ地方、實施ノ時期、

内
こ
一
五



裏面白紙

381763

大日本帝國政府

查察ノ具體的目標、查察委員ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ當省
(地方局)ニ御連絡相煩度此段申進候

裏面白紙

内務省發地第九七號

昭和十九年七月一日

内務次官

381764

都廳府縣長官宛

行政查察委員制度ノ運営ニ關スル件

時局ノ現段階ニ對處シ各種緊要施策ノ急速進實ナル具現ヲ圖ル爲今般行政查察規程中改正相成行政查察使ニ依ル查察ノ外新ニ行政查察委員ニ依ル查察ノ制ヲ設ケ内閣總理大臣又ハ各省大臣ニ於テ本委員ヲ派シテ實地ニ就キ所管行政ノ實績ヲ查察セシム得ルノ途ヲ拓キ以テ行政查察ノ周密

徹底ヲ期スルコト相成候處本制度ト地方行政トノ密接ナル關係ニ鑑ミ本制度ノ圓滑且效果的ナル運営ヲ確保スル爲當省ニ於テハ關係各廳トノ緊密ナル連繫ノ下洛段ノ協力ヲ致度存居候ニ就テハ貴官ニ於テモ右趣旨ヲ體シ本制度ノ運営ニ關シ積極的協力ヲ寄與相成度此段依命及通牒候

供覽
381765

内務省發地第一二三號
昭和十九年九月十四日



内閣書記官長

内閣事務次官



19.9.16
支

内閣書記官長 殿

離島ニ於ケル住民ノ引揚ニ伴フ市町村
行政ノ運営ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本日別紙寫ノ通各地方長官宛御座致候條御了知
相成度

追而地方長官ヨリ貴國ニ對シ石通際申ノ事(4)ニ依ル「役場事務取
扱所」開設ノ報告有之候節ハ貴管下所要ノ機關ニ之ヲ通達方可
然御取計相成度

内
三
三

裏面白紙

381766

内務省發地第十二三號

昭和十九年九月十四日

内務次官

東京都長官
北海道廳長官
樺太廳長官
各府縣知事

離島ニ於ケル住民ノ引揚ニ件ヲ市町村

行政ノ運営ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ「既ニ御配意中ノニトト存候得共今般別紙ノ通決定相

成候條右ニ依リ適切ナル措置ヲ講シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候

○注○「」内ハ東京都、北海道廳兩長官及鹿兒島、沖縄兩縣知事宛ノミニ挿入

裏面白紙

引揚ニ於ケル住民ノ引揚ニ付テ市町村行政ノ運営ニ關スル件

甲、作戦上ノ必要ニ基キ諸島等ニ於ケル市町村住民ノ全数又ハ大部分ノ引揚カ行ハレ原市町村ニ於テハ一時避難上市町村行政ノ執行カ不可能ニ陥リタル場合ニ於ケル市町村行政ノ運営ニ關シテハ應ニ注意スルモノトス

記

一、引揚民ニ關スル一般酌量方針

引揚ケタル市町村住民ハナルベク速ニ帰故先其ノ他適當ナル地ニ居住セシムル等ノ措置ヲ講ジ、居住地市町村ノ行政下ニ之ヲ移スモノトス

ニ、復場事務取扱所(假令)

(1) 原市町村ハ他方長官ノ指導ニ依リ主要引揚先都道府縣管内又ハ地方事務所内等ニ復場事務取扱所(原市町村等ニ一箇所)ヲ設ケルモノトス

(2) 復場事務取扱所ニ於テ應ニ行ハル事務ハ市町村長ニ關スル限リ其ノ基本的事務ニ關リ概ネ左ノ如キモノトス

- (イ) 戸籍ニ關スル事務
- (ロ) 兵隊ニ關スル事務
- (ハ) 重要文書整理等ノ整理保管ニ關スル事務
- (ニ) 引揚市町村住民ノ保護、指導等ニ關スル事務(協力並ニ引揚市町村民ノ避難、運搬等ニ關スル事務)
- (ホ) 前各該ノ事務處理ニ必要ナル財務ニ關スル事務
- (三) 復場事務取扱所ノ事務ハ當該市町村ノ吏員之ヲ處置スルモノトシ市町村吏員在ラザルトキハ市制第百六十四條、町村制第百四十四條ノ規定ニ依リ引揚市町村民中適當ナルモノ又ハ引揚先都道府縣若ハ市町村職員ヲシテ適宜之ヲ處置セシムルモノトス
- (四) 復場事務取扱所ヲ開設シタルトキハ官報ニ依ル公告ニ代ヘ直ニ其ノ名稱、場所、開設年月日ヲ應ニ取置テ以テ各管ニ報告シ各地

万長官ニ選報スルモノトス（各省及各地方長官ハ官下所屬ノ選報

ニ之ヲ選報スルモノトス）

(5) 役場事務取扱所ニ設スル指導監督ハ原市町村ヲ管轄スル地方長官ニ於テ之ヲ行フモノトシ、之レハ當該都府縣山縣所ヲ設置スル等適宜ノ措置ヲ講ズルモノトス

三 市町村職員ノ身分

市町村長其ノ能而市町村吏員及市町村會議員等ハ引湯ニ依リ當然ニハ其ノ身分ヲ失ハサル取扱ト爲シ、左ニ依ルモノトス

(1) 市町村長、助役、収入役又ハ副収入役ノ任期満了等ノ場合ニ於テハ其ノ補充ヲ爲スル選報トナルベキモ之カ爲正法ノ手續ヲ執ルコトハ事實上不可能ナルベキヲ以テ役場事務選報ニ必要ナル選報ニ於テ臨時代選者ヲ選任シ又ハ臨時選報ノ官更ヲ派遣スル等臨時ノ措置ヲ講ズルコト（市制一六四、町村制一四三）此ノ場合町村ニ於テハ収入役ノ臨時代選者等ヲ選任セザルトモハ町村長又ハ

助役ノ臨時代選者等ニ於テ其ノ選報ヲ兼掌スルモノトスルコト

（町村制六七）

(2) 市町村會議員又ハ市町村會議長ガ全部又ハ一部缺タルモ之カ補充ノ選報ヲ行ハサル取扱トスルコト

(3) 市町村長其ノ能而市町村吏員又ハ市町村會議員等ニ對シテハ從來條リ報酬、給料又ハ費用等支給スル選報トナルベキモ實情ニ應ジ之カ支給ノ停止又ハ削減額ノ減額等選報ノ措置ヲ講ズルコト

(4) 市町村吏員ハ役場事務選報ニ必要ナル員數ニ逐次選報シ、其職者ハ之ヲ引揚先都道府縣又ハ市町村ノ職員ニ採用スル等適宜ノ措置ヲ講ズルコト

四 事務ノ處理

(1) 市町村會議又ハ市町村會議ノ議決ヲ失スル案件ノ處理ニ付テハ市町村長ニ於テ萬長官ノ指揮ヲ請ヒ議決スルモノトス（市制九一、九二、町村制七五、七六）

衆議院議員、東京都議會議員及市町村會議員ノ選舉人名簿ハ之ヲ
 調製セザルモノトシ必キナル時期ニ於テ更ニ名簿ヲ調製スルモノ
 トスハ衆議院議員選舉法一七三、東京都制二一、市制二一ノ五、
 町村制一八ノ五一ノ引揚先而町村ニ於テハ引揚而町民ハ通常
 在者ト認メラルルヲ以テ其ノ選舉人名簿ニハ之ヲ登錄セザルモノ
 トス

五 賦務

- (1) 原市町村ハ引揚而町民ヨリハ原則トシテ而町村税ヲ賦課徵收セ
 ザル取次トスルモノトス一引揚先而町村ニ於テハ而町村税ノ賦課
 徵收ニ關シテハ引揚民ノ特殊事情ヲ考慮シテ差當リ減免ノ措置ヲ
 講ズル等其ノ處遇ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス
- (2) 役場事務取扱所ニ於テ是スル経費ハ差當リ而町村配付税等ヨリテ
 之ヲ支辨スルモノトス
- (3) 市町村豫算ハ新編應ニ即スルヤウ適宜更正スルモノトス

備考

- 本措置ノ處遇ニ關聯シテ左ノ諸點ニ留意スルモノトス
- (1) 各市町村ニ於テハ戶籍簿、在郷軍人名簿、充員召集名簿、土地課
 課等ノ基本書類ノ保管ニ付テハ特ニ留意スルコト
 - (2) 市町村民ノ引揚ニ當リテハ豫メ引揚而町民ノ本籍、氏名、生年
 月日、戸主名、戸主トシテ納税及配選者名ヲ記入シタル名簿ヲ各人
 ニ持參セシメ又ハ引卒者ニ於テ整理スル等之ヲ明白ナラシムル措
 置ヲ講ジ置クコト
 - (3) 引揚而町村民ニ付テハ狀況ニ應ジ引揚先而町村ニ於テナルベク選
 二居所寄留又ハ住所寄留ノ手續ヲ探ラシムルヤウ指導スルコト
 - (4) 在郷軍人名簿ニ登錄セラレタル者ニシテ原市町村ニ遷居セルモノ
 ノ氏名ハナルベク速ニ原市町村所轄縣政廳司令部及鎮守府ニ之ヲ
 報告スルコト

乙、作戦上ノ必要ニ基キ陸島等ニ於ケル市町村民ノ一部ノミノ引揚ゲガ
行ハレ原市町村ニ於テハ仍行政事務ヲ分選營セラレツツアルトキハ甲
ノ一及備考(1)乃至(5)ニ依ルノ外編ネ左記ニ依ルモノトス

記

一、引揚市町村民ノ保護、指導等ニ關スル斡旋、協力並ニ引揚市町村民
ノ連絡、連絡等ニ關スル事務ノ爲必要アルトキハ適當ナル地ニ市町
村役場出張所ヲ設ケ關係郡道府縣市町村等ニ連絡スルモノトス

二、引揚先市町村ニ於テハ引揚市町村民ハ適當存在者ト認メラルルヲ以
テ其ノ避難人名簿ニハ之ヲ登録セザルモノトス

尚原市町村ニ於テハ状況ニ依リ避難人名簿ヲ設置シ難キトキハ之ヲ
設置セザルモノトシ必要ナル時難ニ於テ要ニ名簿ヲ調整スルモノト
ス(衆議院議員選舉法一七五、東京都市制二一、市制二一ノ三、町村
制一八ノ三)

三、原市町村ハ引揚市町村民ニ對シテハ状況ニ依リテハ市町村税ヲ賦課

徴収セザル取扱トスルモノトス(引揚先市町村ニ於テハ市町村税ノ
賦課徴収ニ關シテハ引揚民ノ特殊事情ヲ考慮シテ適當リ減免ノ措置
ヲ講ズル等其ノ處置ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス)



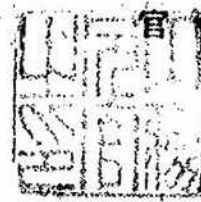
381772

内務省東地第六四號

昭和十九年九月十四日

内務次官

内閣書記官長 殿



東京都小笠原支廳事務取扱所等設置ニ
關スル件

首題ノ件ニ關シ今般東京都長官ヨリ別紙(一)(二)ノ通依頼越有之候
ニ付テハ右御了知ノ上貴管下所要ノ向ヘ周知方可然御取計相成度

内閣
乙三二

裏面白紙





381773

別紙(一)
民監發第535號

昭和十九年八月十九日

東京都長官 西尾壽造

内務大臣 大達茂雄 殿

支廳事務取扱所設置ノ件
管下小笠原支廳職員八員ニ報告ノ通八月三日重要書類
一切携行ノ上支廳以下全員(五十二名)引揚ヲ定テ上
務取扱所ヲ當分ノ間左記ニ設置致度候條右御諒承ノ上
各省、朝鮮、支那、南洋總督府ニ對シ之ガ周知方御此ニ相

煩度此致及御依頼候也

東京都芝区海岸通一丁目十一番地

東京都小笠原支廳事務取扱所

381774

紙 (三)
發 第五三〇號
昭和十九年八月十九日

東京都長官

西尾壽造

内務大臣 大達茂雄 殿

役場事務取扱所設置ノ件

本郡小笠原支廳管内各村役場事務ハ當分間立
記役場事務取扱所ニ於テ取扱フコトト相成候條右節
謀承上各府朝鮮及台灣總督府ニ對シ之ガ周知方節
配意相煩度此段及御依頼候

記
追寄通信官署 稅務署 裁判所及區關係方面等へ通
知有ニ付十八日主務省ニ封シ御依頼方節配意相煩度申渡候

一東京都芝区海岸通一丁目十一番地

小笠原島又島大村役場事務取扱所

全 父島扇村袋澤村役場事務取扱所

全 母島沖村役場事務取扱所

全 母島北村役場事務取扱所

全 硫黃島村役場事務取扱所

(備考) 小笠原支廳事務取扱所ト同一場所ナリ

381775

内甲 二七九

若元 上 十七

リ 十八

リ 十九

内閣書記官

Handwritten signature and official seal

安永 三

昭和十九年十月十八日

内閣書記官長

賞勳局總裁
情報局總裁
技術院總裁
各

中央官廳移転計畫 内八件

標記ノ件 別紙ノ通防室總本部次長ヲ通牒之有候條御了知相成度

安示 (三)

昭和九年十一月十八日

内閣官房總務課長

内閣官房會計課長
内閣統計局長

宛 (各)

示(三) = 同(一) 但し未尾御了知相成度下(一) 命依り通知及候(一) 加(一)

381776

防總一九發第四三四號

昭和十九年十一月十五日

防空總本部次長

內閣書記官長殿

中央官廳移轉計畫ニ關スル件

標記ノ件、昭和十九年八月三日次官會議決定「東京都所在官廳移轉方針」第四ニ基キ貴廳關係移轉先左記ノ通決定相成タルニ付御諒知相成度此段及通知候
 追テ移轉先建物ノ使用條件、使用方法等

內閣書記官

三付テハ貴廳ニ於テ移轉先當事者トテ前御協議相成度

本件連絡先 防空總本部總務局企畫課長

記

省名	名稱	移轉先	向上所在地
內閣	官房其他	議事堂(一部)	
	賞勳局(一部)	都立第一中學校	麴町區永田町二六
	情報局		
	技術院	都立高等學校	目黒區倉町五九一
	統計局		
	賞勳局		

381778

東京都所在官廳移轉方針

(昭和十九年三月
次官會議決定)

- 一 各官廳ノ移轉先ヲ官廳別ニ決定スルコト
- 二 現在脆弱建物内ニ在ル官廳ハ速カニ其ノ他ノ官廳
ハ空襲被害ニ依リ應急修理ニ依ルモ執務不能トナ
リタル際移轉ヲ實施スルコト
- 三 移轉先建物ガ空襲被害ニ依リ應急修理ニ依ルモ執
務不能トナリタル際ノ第二次移轉先ハ必要ノ生ジタ
ル際個別ニ之ヲ決定スルコト
- 四 各官廳ノ移轉先ハ防空總本部長官關係方面ト
連絡協議ノ上之ヲ決定スルコト

- 五 移轉先建物ハ原則トシテ必要ナル期間之ヲ使用ス
ル建前トシ要スレバ土地工作物管理使用收用令ニ
依リ使用權ヲ設定スルコト

備考

官廳被害建物ノ應急修理ハ陸海軍等特殊ノモノ
ヲ除キ大藏省營繕課之ニ當ルモノトス

381773

内
乙
三
八

昭
和
九
年
十
月
三
十
八
日



内閣書記官

昭
和
九
年
十
月
三
十
八
日

安
小

三

内閣書記官長

法
制
局
長
官
賞
給
局
總
裁
技
術
院
總
裁
中
央
航
空
研
究
所
長

80
381700

内閣官房次長
内閣官房會計課長
内閣思給局長
内閣統計局長
總力戰研究所長

宛(各通)

内閣官房總務課長

案三、全

但し未尾念ノ為メ下ニ「命」依リレヲ加フ

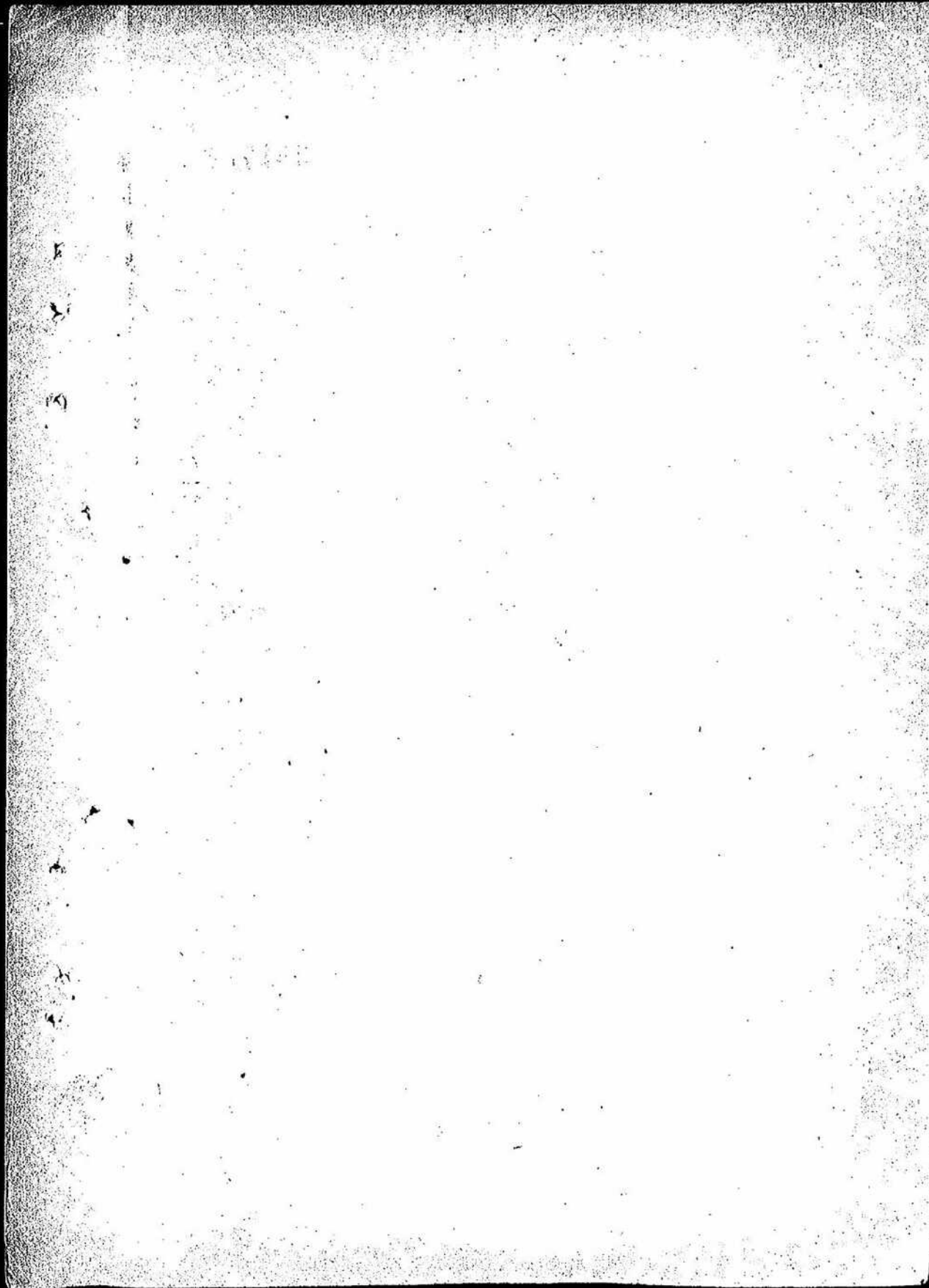
綜合計畫局長
樞密院書記官長
會計檢査院長
行政裁判所長官
貴族院書記官長
衆議院書記官長
宛(各通)

總動員警備要綱第六條ノ規定ニ依ル主要警備地ノ
指定ノ内スル件

標記ノ件別紙ノ通内務次官ヨリ通報之有候條念ノ為メ通牒
ニ及ハ候

案 (三)

昭和 年 月 日



裏面白紙

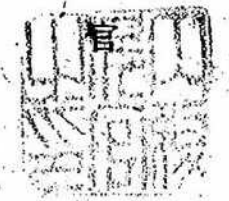
内務省發覺第一二八號ノ二

昭和十九年十一月二十二日

381781

内閣書記官長
情報局長
各 省 次 官 殿

内 務 次



19.11.27
文

總動員警備要綱第三十六條ノ規定ニ依ル主要警備地ノ指定ニ關スル件

中央總動員警備協議會ノ決定ニ基キ總動員警備要綱第三十六條ノ規定ニ
依ル主要警備地ヲ左記ノ通指定相成候條此段及通知候也

追テ本件ニ關シ別紙寫ノ通各廳府縣長官宛通牒致置候條御了知相成候

内
乙
三

裏面白紙

内務省發警第一二八號

昭和十九年十一月二十二日

内務次官

各廳府縣長官 殿

381782

總動員警備要綱第三十六條ノ規定ニ依ル主要警備地ノ指定ニ關スル件

總動員警備要綱第三十六條ノ規定ニ依リ主要警備地ヲ左記ノ通指定相
成候條之ニ差キ主要警備地ノ區劃ヲ決定スルト共ニ總動員警備上遺憾
ナキヲ期セラレ慶此段及通際候
追テ右ニ依リ主要警備地ノ區劃ヲ決定シタルトキハ之ヲ内務省ニ報
告相成候

左記

主要警備地ハ沿岸警備並ニ空襲警備ニ付之ヲ定メ皇室御官ニ付スル
モノノ所在地ノ外左ノ各處ニ揚グルモノトス

一 沿岸警備上ノ主要警備地

- (一) 臺灣及一重西諸島
 - (二) 北海道特ニ南部沿岸地境及千島列島、伊豆七島
 - (三) 關東及三區各沿岸地境、九州南部沿岸地境
 - (四) 東海道、紀州、四國各重要部沿岸地境
 - (五) 朝鮮南部及西部沿岸地境
- 各主要警備地内ニ於テ特ニ警備上ノ重要點ヲ檢閲スヘキ地區ニ付テハ軍司令官又ハ鎮守府司令長官、警備府司令長官若ハ獨立混成司令長官ヨリ關係地方長官又ハ其ノ他ノ關係地方官達ニ對シ提示スル事ニ依ル

二 空襲警備上ノ主要警備地

甲 四大地區

- (一) 京濱地區 (東京、品川、立川市、板橋市、川崎市、板橋市)



- (二) 阪神地區 (大阪市、堺市、市橋市、淡路市、神戸市、尼崎市、西宮市、明石市及其ノ周邊地區)

- (三) 名古屋地區 (名古屋市及其ノ周邊地區)

- (四) 北九州地區 (門司市、小倉市、戸畑市、八幡市、若松市及其ノ周邊地區)

乙 其ノ他ノ地區

- (一) 長崎地區 (長崎市、其市及其ノ周邊地區)

- (二) 西九州地區 (長崎市、佐世保市、大村市及其ノ周邊地區)

丙 甲乙兩地區ニ含マレザル主要警備地

- 京都市、舞臺市、新潟市、大宮市、太田町、宇都市、日立市、
- 原日市市、磐前市、濱松市、沼津市、清水市、仙居市、新加
- 青森市、木更町、宇都市、徳山市、和歌山市、新加波市、高知
- 市、福岡市、大牟田市、熊本市、鹿兒島市、札幌市、小樽市、
- 函館市、室蘭市、京橋市、釜山府、奉天市、青島市、瀋陽市

總動員警備要綱 抜萃

第五節 重要警備対象物及重要警備地ノ總動員警備

第三十條 内務大臣ハ中央總動員警備協議會ノ議ヲ經テ非常事態ノ種別ニ應ジテ總動員警備上重要ナル地域ヲ指定シテ主要警備地ト爲シ、地方長官ハ地方總動員警備協議會ノ議ヲ經テ主要警備地ノ区劃ヲ決定ス

(國定規格紙一八二×二七二種)

裏面白紙

68
#6
Suzuki
Suzuki
Suzuki

裏面白紙